



瓦（住友家紋入り）

尾道には、たくさんのお寺があります。お寺にはご本尊様がいますが、そのなかには、こんなちいさな仏様たちも。

木造文殊菩薩騎獅像（常称寺）

もんじゅぼさつきしぞう
智慧を司る仏様として知られています。
尾道市内でも有数の小ささ、台座からの高さが8cmほどしかありません。
厨子の扉を開めると、男性であれば、丁度握ることができる大きさです。
おそらくは、普段から懐にいれて常に持っていたと考えられます。



尾道のちいさな仏様の展覧会

令和元年8月3日[土]ー9月23日[月・祝]



おのみち歴史博物館

休館日／8月中は無休、9月は火曜日 入館料／一般 200円（20名以上の団体 160円） 共通 500円（おのみち映画資料館も観覧できます）
※ 中学生以下無料 ※障がい者とその介護者各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

〒722-0045 広島県尾道市久保一丁目 14-1 Tel. (0848) 37-6555





木造准胝観音菩薩座像【脇侍】二童王像仏母（持光寺）
もくぞうじゅんていかんのんぼさつぞう



千体仏【木造阿弥陀如来立像】（常称寺）
せんたいぶつ【もくぞうあみだによらいりゅうぞう】

仏の母といわれ、安産と子授けにご利益があるとされる観音様です。また、雨乞いの神様として祀られていたともわれています。脇侍に二人の童王がいることからもうかがえます。蓮の花のなかに座していますが、この花びら自体が厨子のように扉となっています。小さくて美しい蓮の花びらの扉を開いていた人は、たぶん女性だったかも。

江戸時代に本堂の内陣を取り囲む形で、上の壁に設置されていたものです。現在、確認されている仏様の数は、990体あまりあることから、実際に千体あったと推測されます。背中に、奉納者の名前が墨書で書き込まれています。本展では、その一部を展覧しますが、それぞれ少しずつ顔の表情が異なっているんです。それだけ、たくさんの人々の願いが込められているものと想像されます。



**5 cm ~ 15 cm くらい、
手のひらサイズの小さい仏様をセレクト！**

木造千手観音菩薩像（浄土寺）
もくぞうせんじゅかんのんぼさつぞう

あらゆる現世利益がある、マルチな万能型の仏様です。千手様の正式名称は千手千眼観自在菩薩といいます。浄土寺の本尊は秘仏の千手観音様。こちらの千手様は、このお寺で一番小さな千手様かも。

木造愛染明王座像（西国寺）
もくぞうあいぜんみょうおうぞう

良縁、結婚成就、夫婦円満、無病息災などにご利益がある仏様です。尾道は古くからの商人の町です。ひょっとしたら、商家の人々が幸せを願う気持ちを、この仏様に託していたのかも知れません。台座には、小さな仏法道具などが付けられています。ちょっとシュールなデザインですが、とてもカワイイんです。



高さ5cmくらいの仏様

おのみち歴史博物館では、夏の企画展として「尾道のちいさな仏様の展覧会」を開催します。おのみち歴史博物館では、「知られざる仏教美術」のシリーズとして、これまで、あまり知られる機会がなかった尾道の仏教美術の世界を紹介してきました。このたびの展覧会は、尾道水道沿いの寺院に伝わる小彫刻に焦点をあて、皆様にご覧いただこうと紹介するものです。

尾道港は、今年、開港 850 年となる記念の年を迎えました。中世から港湾都市として栄えてきた尾道は、商人たちの寄進により多くの寺院が建立され、今でも、水道沿いの尾道市街地には、数多くの寺院が立ち並んでいます。

寺院には、本尊として祀られている仏様以外にも、多種多様な仏様が安置されています。そのなかには、小さな厨子に納められた小さな仏様も数多くあります。もともと、そのお寺のために安置された仏様から、人々の自宅から、お寺に奉納されたもの、さらには普段から懐に納めていたようなものまで、来歴はさまざまですが、いろんな小さな仏様があります。

本展では、先祖供養などで寺院に収められたような小さな仏様から、もともと寺院に伝わる仏様まで、人々の普段の生活に一番近い仏様に触れていただければ幸いです。



尾道のちいさな仏様の展覧会 おのみち歴史博物館企画展

交通案内
徒歩：JR 尾道駅から 15 分
バス：JR 尾道駅から東方面行きバスで「長江口」で下車徒歩 3 分
※お車で越えの方は、駐車場がありませんので、近隣の有料駐車場をご利用ください

〒722-0045 広島県尾道市久保一丁目 14-1 Tel. (0848) 37-6555

